



# MDP

## Sagan Tosu

2023 明治安田生命 J1 LEAGUE

2023明治安田生命J1リーグ第14節  
@ 駅前不動産スタジアム

MATCHDAY PROGRAM  
サガン鳥栖オフィシャルマッチデープログラム

2023 Season | VOL 09

05.20 [SAT]  
17:00 KICK OFF  
vs アルビレックス新潟



©1997 ALBIREX NIIGATA INC.



MF Naoyuki FUJITA

背番号14という鳥栖の基準。  
信頼はこの男に集まる。

川井健太監督の信頼は揺るがなかった。昨季に続き、今季もチームキャプテンの任を託されたのは藤田直之だった。ただ、藤田自身はキャプテンという立場をさほど意識していないように映る。そこには藤田の描くキャプテン像があるからだ。「いいチームや強いチームは、キャプテンの存在がいなくても自主的に取り組めるチームだと思う。鳥栖にはそういうチームになってほしいし、僕の仕事がほとんどないほうがいい」。選手それぞれが責任と自覚を持ち、考えて行動する。自立した集団にはキャプテンという旗頭は必要ないかもしれない。昨季、鳥栖に復帰し、キャプテンという立場でチームを見てきた藤田の目にはどう映ったのか。「自主的に行動できる選手が多いし、自分が何かを言う必要がないようなチームになりつつある。だから、僕は陰ながら何かしらのサポートをするくらい立場がいい」。自らが描く「いいチーム」に鳥栖は成長している。だからこそ、藤田は自然体でいられるのだ。

それでも、藤田にしかできない役割もある。川井監督も「全員が責任をもって行動していく中で『軸』がほしい」とキャプテンという立場の重要性を語る。サッカー選手としての経験値、若手選手たちから慕われる人間性。そして、何よりも鳥栖の歴史をいまのチームで誰よりも知っている。その存在はチームメートだけでなく、サポーターからの信頼を集めることができる唯一無二の価値がある。いつも存在感を放つ必要はない。ふとしたときに「鳥栖に来てよかった」と思わせてくれる存在であり続ける。鳥栖に関わるすべての人たちが一丸となって進んでいく上で「藤田直之」はやはり、なくてはならない大黒柱だ。川井監督が掲げる「サポーターをしあわせにする」という目標。藤田もその思いは強い。「サポーターの方々に『面白い』、『また応援したい』と思ってもらえる。感動させられるような、何かを感じて帰ってもらえるようなサッカーを展開したい」。今季もその姿で鳥栖をけん引する。

matchday program presents

MIZOTA presents

# ミゾタ604 スペシャルマッチ